

第2回八重瀬町総合開発審議会 議事録

日 時：平成20年3月7日（金） 14：00～16：50

場 所：八重瀬町役場2階大会議室

委 員：神谷会長、宮城副会長、與儀委員、安里委員、国吉委員、新垣 勲委員、玉
城委員、小野委員、伊集委員、新垣 清徳委員
（欠席：野原委員、仲里委員、城田委員、上原委員）

八重瀬町：金城、上地、与谷、新垣

(株)国建：内間、江田、系数

[検討議事]

小野委員：この審議会を今後どのように進めていくのか。全体のフレームを示していただきたい。

事務局：平成18年9月8日に第一回目の総合開発審議会を開き諮問をした。現在、当初予定していた計画よりも遅れはあるが、町長から早めに策定するよう指示が出ている。そのことを踏まえ、今後も慎重に審議を行いたいと考えている。

事務局：基本構想は議会の議決が必要であり、6月議会を考えている。5月いっぱいまでには基本構想を作成し、町長に確認をした後に議会に上程するので、遅くとも6月中旬の定例議会までにはまとめていきたいと考えている。

神谷会長：新町建設計画と総合計画の関連性を説明していただきたい。（新町建設計画を各委員に配布）

事務局：新町建設計画をベースにし、不足しているものについては総合計画に盛り込む形で素案を作成している。

玉城委員：町民憲章と新町建設計画のどちらが基本理念として挙げられているのか。

與儀委員：新町建設計画があり、町民憲章が制定されたなかで、基本理念の内容について、我々は何を検討すれば良いのか分からない。

事務局：旧町村の総合計画にある「まちづくりの目標」を参考にし、合併後、町民憲章が出来た。よって、町民憲章を基本理念にし、新町建設計画の基本理念は基本目標に継承していくという考えである。

玉城委員：町民憲章については、議会議決は行われたのか。

事務局：本町では議会議決は行われていない。町民の方に町民憲章（案）を見ていただいて、それについてのパブリックコメント等を踏まえて町民憲章を検討

する委員会で検討を行い、町民憲章を制定した。なお、合併した他市町村においても議会議決が行われた事例はない。

玉城委員：基本理念・構想は、議会等で意見を出し合い決めたほうが良い。

小野委員：総合計画は、どうしても補助金のメニュー別の縦割り行政に合わせた形になってしまう傾向がある。

今回の基本構想(案)でも基本理念は示されているが、八重瀬町の特色が見えてこない。行政として今後、地域をどのように経営していこうと考えているのかが大事だと思う。

それから、補助事業別の縦割りの表現になるのは仕方ないが、まちづくりの現場においては様々な事項が関わってくる。例えば、食育の推進は地元の農業と密接に関わり、雨水利用などは環境問題にも関わってくる。このような関わりも考えていけたら良いのではないか。

神谷会長：基本構想、基本目標、実施計画と具体化していくなかで、八重瀬町の特色を打ちだしていけるのではないか。

事務局：八重瀬町には特色が多くあり、それを活かしたまちづくりを目指していきたい。しかし今回、文面に特色の部分を書き込めなかったので、今後の検討課題としたい。

玉城委員：八重瀬町はどういうまちづくりをしていきたいのか。本町の文言・キャッチフレーズを見ると、他市町村と同じようなフレーズを用いている。八重瀬町独特の基本理念はないのか。謝花昇先生や、仲本稔先生などの歴史的人物や文化等を踏まえ、町をアピールできるキャッチフレーズを前面に出しても良いのではないか。

小野委員：基本構想では細かい表現はしなくても良い。アクションプログラム(実施計画レベル)でしっかりとやれば八重瀬町の特色はでてくると思う。

農水産業がある、那覇に近い都市近郊のまちでのどかな風景も残っているというのは八重瀬町の特色だと思う。例えば、農業(モノ作り)をベースとした地域づくりや、謝花昇さんが行った、循環型農業の先駆的な取り組み(畜産と耕種の連携)に関する考えなどを基本構想に謳っても良いのでは。

玉城委員：p20 まちづくりの基本理念のところに、八重瀬町を表す独自の文言が入ると良いと思う。

神谷会長：基本構想の中に八重瀬町の特色を前面に出せるようなキーワードを取り入れてもらいたいという委員からのご意見である。

事務局：八重瀬町の特色が伝わるように、基本構想での表現を検討したい。

新垣勲委員：p19-(3)「優先的に取り組んでいく施策」について。今後、国道整備に伴

い企業が参入してきた場合、その企業で町民が働けるようにするなど、雇用対策に関する事項を盛り込んで欲しい。

神谷会長：旧東風平周辺にはわりと量販店の進出が目立ってきているが、旧具志頭には店舗が少なく、買い物に不便であるのが現状。例えば国道 331 号周辺に特産品を多く取り扱った施設（道の駅など）を作っても良いのでは。そのようなことを、基本構想の中で謳っても良いのではないか。

新垣勲委員：道の駅をつくった場合、どこが対応するのか。うまく経営できるのか。

神谷会長：行政は入らず、民間で運営する方が良いと思う。たとえば、徳州会病院に向かう道にある「アグリ」という店や、白川小学校近くにある「白川ファーム」など、規模は小さいが人が集まる店がある。小さな規模から拡大を図る考え方も良いのでは。また、地元で加工し、販売していけたら良い（地産地消）。

事務局：雇用、企業誘致に関しては盛り込んでいきたい。

国吉委員：これから 10 年後の八重瀬町が、どのようなまちになっていくかという事を、写真や動画、ポスターなど目に見える形で表現したほうが分かりやすいのではないか。

宮城副会長：まず、基本構想で町の 10 年間を見据えて、それに基づき基本計画で具体化していく。その中で色々な変化が起こり、これを 5 年毎（前期基本計画・後期基本計画）に柔軟に見直すことができる。そのようなことで、基本構想はあまりはっきりと目に見えるような形で出すのではなく、「これは変わらない」というものを打ち出すということに狙いがあるのではないか。

神谷会長：今、10 年後のイメージを表すと、固定化されてしまう恐れがある。基本計画、実施計画を行っていく上で、イメージは具体化されると思う。

小野委員：八重瀬町の魅力というのは、都市近郊にあり、農業があり、農地や小さな森があって人が暮らしている。今ある八重瀬町の風景などを写真として残していければ良いと思う。

国吉委員：イメージを絵にする事で、住民がそこに向かっていく考えが生まれてくるのではないか。本来、それが構想なのではないか。また、集落ごとのイメージを出しても良いのではないか。

玉城委員：今の八重瀬町の「田園都市」という地理的・地形的なものに、基本理念を合せたイメージを絵に描いたら面白いと思う。

小野委員：高知県では、大型商業施設の立地などでまちが急速に変化していく中、地元のアーティスト、写真家たちが残していきたい風景を写真に撮り、写真展を開いて、それを「高知遺産」という本にし自主出版して話題になった。八重瀬町で残すべきもの、大切なもの、特色あるものを表現することで、今後のまちづくりに対しての考え方が出てくるのではないか。何を大事にし、ど

こを新しくするのかを示す必要がある。また、地域の写真を基本構想に入れても良いと思う。

神谷会長 : 古き良きものを残す事は必要。例えば、八重瀬町役場前のフクギ並木は貴重で、一度壊すとなかなかつくることはできない。このような町並みを残していくために、写真などで表現する事は大事だと思う。

事務局 : 写真でわかりやすく表現する事については検討したい。また、小学生を対象にして、八重瀬町の将来を描く図画コンクールや作文コンクール等を検討している。

安里委員 : 今ある八重瀬町の特産品を活かしていくことが今後の課題だと思う。そのために加工工場などもつくっていき、地産地消につながれば良いと考える。

玉城委員 : p24(1)- 農業の振興について、「環境保全型農業」として循環型農業の話がある。基本構想で文言としては挙げているが、実際の施策としてはやっていない。八重瀬町の農業においては多面的な部分があるので、今後は耕種と畜産の連携が重要になると思う。また体験型観光などにも力を入れてほしい。基本構想に書くからには、絵に描いた餅にならぬようにして頂きたい。

: p24(1)- 水産業の振興について、「計画的に獲る」の意味が良く分からない。たくさん獲れるなかで、漁獲量を調整していくような意味にとれる。実際に漁ができる期間というのは限られている。

: p25(2)- 交通体系の整備について、文中に「広域的な骨格となる」とあるが、那覇空港自動車道が八重瀬町の骨格になるのか。

: p26(4)- 高齢者福祉の充実について、「単に寿命の延伸だけでなく」は文言的におかしいのではないか。この表現では、長生きするのが良くないという受け取り方もできる。

小野委員 : p25(2)- 交通体系の整備のなかで「歩行者空間」の視点を入れても良いのではないか。

: p25(2)- 住宅・生活環境の整備について、「自然や田園環境と調和した新たな住宅地開発や協定づくりなどのまちづくりを展開する」とあるが、建築協定に加えて地区計画も加えてはどうか。

: p25(2)- 上下水道の整備について、雨水利用の促進、またその内容を入れるべきではないか。また、下水道については低予算で維持管理がし易くなるようにしたほうが良い。

: p26(4)- 健康づくりの推進について、ウォーキングができるような環境整備に取り組む必要がある。

: p26(4)- 食育の推進について、給食との連携、地産地消に取り組んで欲しい。

: p26(4)- 高齢者福祉の充実について、高齢者でも現役で農業ができる環境づくりがあれば健康維持にも繋がり、農業の振興にもなる。

：p29(8)- 効率的な行政組織について、行政の総合的な考え方が弱い。縦割り行政的な話だけでなく、庁内の横断的な連携を図る視点が大切だと思う。

：p29 3-(1)自然環境の保全について、生活環境と密着した身近な樹木も大事になってくるのではないかな。

：p29 3-(2)農地の保全と有効活用について、新規就農できる環境づくりを促進しても良いのではないかな。また、耕作放棄地を利用したい方に提供し、有効利用してもよいのでは。

：p30 3-(5)土地利用規制の検討について、町として長期的に都市の骨格を形成ため、今後はマスタープランを作る必要がある。それぞれの地域の具体的な意見を反映させながら、町で土地利用のビジョンを作っても良いと思う。

事務局 ：本日のご意見は、素案づくりに反映していきたいと思う。

玉城委員 ：町としては、基本構想を早く策定したい意向があるが、6月にやろうが9月にやろうが同じ。基本構想を作成する場合は、いろいろなところから意見を聞いて時間かける事が大事であって、早く作れば良いということはない。

[その他]

事務局 ：次回の審議は平成 20 年 4 月 7 日、または 10 日の午後 2 時で予定する。

事務局 ：現在、第一次八重瀬町国土利用計画も策定作業中で、町民アンケート等を実施しているところである。素案が出来次第、この総合開発審議会で審議・諮問という形になると思います。その時もよろしくお願いします。

以上